

はなし かなだ き くれない
嗚は**神田**、聞いて**紅**。今こそ心元気に！

福岡ゆかりの
創作講談

第5回

金印スピリッツを伝える

古典講談

『真田幸村大坂出陣』
大河ドラマの主演「真田丸」

神田紅

独演会

夏樹静子の『心はサスペンス』

心療内科を知らしめた「椅子が怖い」より

あの励ましを忘れない！
感謝を込めて語ります。

追悼特別企画



ミステリーの女王と称され最後まで福岡で執筆を続けた作家・夏樹静子氏は今年3月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り致します。



独演会DVDを制作致します。
料金4,000円(送料込)
*お申し込みは金印倶楽部へ。

講談やってみまショー

メリハリ・ツッコミ・謡い調子。
講談の魅力を会場の皆様と紅塾がご一緒に。

福岡ゆかりの物語

松下幸之助、宇野千代、稲盛和夫、広岡達朗らが師事した天風の教えは、きっとあなたの心にも響きます!!

郷土の語り部
金印亭一門による
立体講談

『人生は心一つの置き所 ～申村天風伝』

この事業の収益金はNPO法人金印倶楽部の活動に使われます。

◆と き／平成28年 **11月5日(土)** 13:30開演 (13:00開場)

◆ところ／北九州芸術劇場 中劇場 小倉北区室町1-1-11

◆入場料／3,500円(当日4,000円) ※全席自由

チケット販売
・チケットぴあスポット、セブンイレブン、サークルK・サンクスで Pコード:454-431
・ファミリーマート e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>
郵送希望は金印倶楽部へお申し込み下さい。TEL (092)737-5430 FAX (092)737-5432 mail:kinin@kinin.com

主催 NPO法人 金印倶楽部 〒810-0021福岡市中央区今泉1-10-21-901 <http://kinin.com> <http://fukuoka-senjin.kinin.com> 共催 神田紅独演会を成功させる会

後援 福岡県 北九州市 北九州市教育委員会 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 産経新聞社 日本経済新聞社西部支社 西日本新聞社 西日本リビング新聞社
RKB毎日放送 九州朝日放送 TNCテレビ西日本 FBS福岡放送 TVQ九州放送 (予定)

◆NPO法人 金印倶楽部は「小さな博物館運動」の一環として、国宝・金印レプリカを昨年は大谷小学校に贈呈、今年も北九州市の小学校に贈られます。16:00より贈呈式を開催いたしますのでどうぞご参加ください。*参加無料。裏面をご参照ください。



【御挨拶】



昨年に夕食を御馳走になり、わずか半年後には、夏樹先生の美しい亡き顔にお目にかかることは夢にも思わず悲嘆にくれました。

けれども、ただ悲しむのでなく勇気を振り絞り、ご主人の出光芳秀氏に懇願し

語らせていただくことに致しました。

なぜなら、よき妻、よき母として家族を支えながら、死を覚悟するほどの不治の恐怖を乗り越えて、作家の志を貫いてきた夏樹先生の生き方そのものが、

私たちを勇気づけ、励まし続けてくれると思うからです。

5年前、東日本を襲った未曾有の大震災。記憶も生々しい熊本大地震。

突然の苛酷な運命にじつと耐えながら、懸命に立ち上がりうとして

すべての方々におくります。

日本人はどんな苦難にも負けず、強くひたむきで美しい。

そんなメッセージをお届けできれば幸いに存じます。



講演師

神田 紅

▶日本経済新聞

2010年6月16日掲載

夏樹静子氏が神田紅について書いた記事です。

作家 夏樹 静子

講演師・神田紅さんとは不思議な縁がある。私の夫が福岡の修徳館高校と早大商学部で彼女のすつと上の先輩、新作講演出光佐三は夫の伯父の話だ。一方紅さんが文学座の女優を経て入門し、今日あるは師匠のお陰と仰ぐ二代目神田山陽の次男は、私に最初に長編小説を依頼して下さった編集者で、以来40年余りの知己である。2000年に山陽師匠が91歳で他界され、ご葬儀で私は初めて紅さんと会った。

1979年入門の神田紅は、同年本牧亭の初舞台がミュージカル講談「へんげるとぐれてる」という度胸で、「滝の白糸」や「高野聖」等の伝統的芝居講談もやれば、M・モンローやA・ヘップバーンの生涯を語り、人工衛星打上げには科学講談「ロケットの歴史」と次々新分野を開拓し、高座、舞台、踊り、テレビ、CDと精力的な活躍が続く。



講談(談)は江戸初期の始まりと伝えられる。文化から天保(1804~44)の全盛期には講談師800人で女流も生まれた。明治から「講談」になり、名人が輩出。「コロンス伝」等の翻訳物や時事講談も評判になった。大正から映画に押され、戦後は占領軍に禁止されて衰退した。

現在は東京の本牧亭などが講談を主にやる寄席(興行所)で、講談師は落語が主の寄席にも出演して場数を踏む。紅さんが入門した頃には数人だけだった女流が近年30人以上に増え、男女比が逆転している。だが若い人はほとんど講談を知らない。講談から(日本語の持つ意味の深さやリズムの美しさを感じて欲しい。)と紅さんは自伝に書いている。今や勇敢で発想柔軟な女流の方たちが、講談の新しい魅力を世に広げてほしいと、私も願っている。

女流講談師の世界

講演師・神田紅さんとは不思議な縁がある。私の夫が福岡の修徳館高校と早大商学部で彼女のすつと上の先輩、新作講演出光佐三は夫の伯父の話だ。一方紅さんが文学座の女優を経て入門し、今日あるは師匠のお陰と仰ぐ二代目神田山陽の次男は、私に最初に長編小説を依頼して下さった編集者で、以来40年余りの知己である。2000年に山陽師匠が91歳で他界され、ご葬儀で私は初めて紅さんと会った。

演目

開口一番 福岡紅塾

◆講談やつてみましょー

メリハリ・ツツコミ・誦い調子。講談の魅力会場の皆様と一緒に。

◆〈古典講談〉神田紅

さなだゆきむらのおおさかしゅつじん

「真田幸村大阪出陣」

家康は連戦連勝の幸村を「敵ながら天晴れであり、江戸城内にて幸村を誉め讃えることを許す」とした。武士が憧れた武士。現代の歴史が憧れる幸村は、大河ドラマ「真田丸」の主役。リズムカルな修羅場を語る古典講談をご堪能ください。

◆〈立体講談〉郷土の語り部 金印亭一門

「人生は心一つの置き所」

なかむらてんぶう

多くの政財界の人々の心よりどころとなる言葉を残した中村天風。福岡に字ひヒマラヤでヨカの奥義をきわめた哲人の積極的思考は、困難を切り拓き「生きる勇氣」を与えます。



1876(明治9).7.30~1968(昭和43).12.1

◆〈創作講談〉神田紅

「心はサスペンス」

夏樹静子著「椅子が怖い私の腰痛日記」より

心は深く、傷つきやすく、温かい。心が抱える闇と光は溶け合うことがないミステリーかもしれない。ミステリーの女王と称され、世界中にもファンを持つ作家・夏樹静子の心と体に起こったサスペンスとは…。

講談は、日本古来の芸能でありながら、一人芝居…一人で演じるエンターテイメント。創作講談の脚本は生みの苦しみ…紅流に書き上げ、演じながら完成されていきます。映画でもないテレビでもない、生きた人間ドラマ。泣いて笑って…感動しますよ！

参加無料 国宝・金印レプリカ贈呈式

小さな博物館運動



西暦57年、私達の先祖は船で中国を訪ね、友好の証として「金印」を贈られました。2千年前の中国への船旅は、極めて困難でそして雄大なことです。先人達のチャレンジ精神と、壮大な交流の歴史を伝えてくれる「金印」は小さな博物館。歴史を大切に、困難を乗り越え未来に羽ばたくチャレンジ精神を育ててほしいと願い、金印レプリカを小学校に贈呈します。

◆とき 平成28年11月5日(土) 16:00~16:50
◆ところ 北九州芸術劇場 中劇場

NPO法人 金印倶楽部誕生！

皆様方の温かいご支援、ご協力のお陰で、私共の運動は福岡に根付いた文化活動と認められ、昨年、神田紅は福岡市民文化活動功労賞を授与されました。また今年5月、金印倶楽部はNPO法人として認証され、より力強く、新たな一歩を踏み出しました。